

注目の新設校インタビュー

お話 東洋大学附属牛久中学校(認可申請中)

東洋大学附属牛久高等学校校長 遠藤隆二 先生



編集部 よろしくおしいたします。東洋大学附属牛久高校に来春中学校が併設することになりましたが、中学校開校に踏み切ったきっかけからおしいたします。

遠藤 もともと本校は、50年前に牛久市、当時の牛久町には高校がなかったことから、町の誘致と校地の提供で開校した学校です。後援会長も歴代の牛久市長です。牛久市は人口が増えていますが、それとともに経済力があって教育に関心があるご家庭が、東京にマンションを買って東京の学校に進学させるケースが目立ってきました。市長さんがこれを嘆き、「地元の子供は地元で育てたい、東京の学校に負けない学校にしたいものだ。」というような話をされました。

編集部 人口が増えても、教育力の面では地元があまり魅力的ではなかったわけですね、

遠藤 そのころ、本校を経営している東洋大学も幼稚園から大学院までの総合学園化の方針を固め、附属校の強化に取り組むことになりました。そこで本校に中学校を併設し、中高一貫の、より質の高い教育を行って地元の皆様のご期待にそえる魅力ある学校になれば、本校教育の充実・発展にも繋がると考えました。ちょうど今年が創立50周年ですから、その記念事業、学校の改革・改善の一つとして中学を開校することにしました。

編集部 中高一貫の質の高い教育の内容をお聞かせください。

遠藤 グローバル化社会で活躍できるたくましい人間力を育むことが目標です。本校は3月に文部科学省から、スーパーグローバルハイスクール(SGH)のアソシエイト校に認定されました。県内では県立の土浦第一高校が本認定、県立水戸第一高校と茗溪学園がアソシエイト校です。

編集部 SGHとはどのような取り組みですか。

遠藤 文部科学省によると、「地球的課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ために、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を図る事業です。アソシエイト校は本認定校とともにSGHの取り組みの情報共有や成果の発信が求められます。

編集部 全国的なグローバル・リーダー育成プログラム開発の一翼を担うわけですね。

遠藤 本校が今回、県立のトップ校2校と、帰国生教育で知名度の高い茗溪学園とともにSGHの仲間入りができたのは、今までの本校の取り組みが評価されたからでしょう。本校は一昨年、外務省の「絆プロジェクト」に参加して126名の生徒をアメリカや中国、シンガポール等に派遣する一方、136名のアメリカやモンゴル等の高校生を在校生宅でのホームステイで受け入れました。

編集部 136名全員ですか。

遠藤 はい。在校生のご家庭はとても協力的でした。昨年は秋に外務省の方を招いて「海外から見た日本人 欧米と比較した日本人の世界観の違い、外交を通じての日本の姿勢など」について講座を行なっていますし、本校独自のホームステイとして南オーストラリアの州都アデレードで、一人一家庭のホームステイと語学研修を実施しました。こちらは20名が参加したテストケースでしたが、大成功でしたので、今年から特進コースの高2生130名全員に拡大します。

編集部 こうした取り組みが来年からの中高一貫教育でさらに深められるわけですね。

遠藤 中高一貫生は中2でのプリティッシュヒルズで「英語オンリー」のアクティビティーの研修を実施、アデレードのホームステイは中3で実施

します。日本文化の理解も重要で、自分たちが理解していないと外国の方々に説明できませんから、高1では京都・奈良などで改めて伝統文化研修を実施、日本の文化をどのように英語で説明していくか、生徒一人ひとりが取り組みます。高2ではシンガポールに修学旅行で出かけます。現地ではシンガポール大学の学生とともに研究活動を行います。

編集部 こうした研修の成功には日常からの校内での学習が大切ですが、どのような取り組みを予定していますか。

遠藤 グローバル化社会で主体的に生きていくには、語学はもちろんですが、豊かな教養をもち、様々なテーマに対する問題点を見つけ、その解決策を考え、発表し、外国の方々とコミュニケーションして議論できる力が必要です。語学についてはネイティブの指導を積極的に採り入れるほか、校内にオールイングリッシュ・ゾーンを設置して、日常的に英語と触れ合う環境を作ります。

編集部 英語力の目標はありますか。

遠藤 中3で全員英検準2級、高2で2級が目標です。でもグローバル人材は英語力だけではダメです。そこで通常の教科の他に、「グローバル」という学校独自の教科を設定します。この教科は「哲学」「教養」「国際」「キャリア」「課題研究」の5つの科目で構成します。教科・科目ですから指導目標や指導内容等も研究・開発し、シラバスも整備して実践し、評価も行ないます。

編集部 「哲学」ですか。

遠藤 哲学といっても、高校の倫理や大学の哲学でやるようなものではありません。テーマや題材ごとに考えさせたり、ディベートをさせたりして「考える」実践を通して、自分自身の考え、「自分の哲学」をもてるようにしたいと思います。中1と中2で週1時間、私自身が直接担当します。

編集部 校長先生が授業をされるのですか。

遠藤 はい。今、いろいろ考えているところです。例えば、「愛の表裏」といったテーマも行ないますよ。ディベートを積み重ねる中で、最初はなんとなくだった自分の考えがしっかりまとまればいいでしょう。生徒が70人いれば70通りの考え方があります。それぞれのテーマに対して自分の考えを

しっかりもち、発表できる力を育てます。

編集部 課題研究についてもお聞かせください。
遠藤 自分で研究テーマを設定し、論文を作成、高2で全員参加の発表会を行ないます。優秀作品は全校生徒の前で発表するだけでなく、校外の各分野のコンテストやコンクールに、積極的に応募させようと思っています。

編集部 やはりグローバルがテーマですか。

遠藤 いいえ、こちらは生徒一人ひとりの関心でいいと思っています。社会科学、自然科学...深く探求し、充実した内容であれば構いません。理科・数学・環境教育にも取り組みます。現在の高校生が牛久沼の水質と微生物、地域の里山、原発事故後の残留放射能や食物といった、理系分野の研究にも関心をもち研究しています。その成果は東洋大学の国際シンポジウムで発表しています。

編集部 研究活動の積み上げも十分あって、中高一貫生はさらに深めることがよくわかりました。次に日常の学習生活についてうかがいます。授業時間などについてお聞かせください。

遠藤 週6日制・45分授業で、月～金曜は7時間、土曜日は3時間の週38時間です。英数国は毎日授業を行うほか、理科と社会も多くの時間数を割り当てています。

編集部 授業の進度はいかがですか。

遠藤 主要教科は中3から順次高校内容に入っていきます。カリキュラムの進行は早いですが、授業時間数が多いので、特に中1・中2ではむしろゆっくり丁寧に確実に学習内容の定着を図っていきます。土台をしっかりと築いていけば、高校段階の範囲に入ってからスピードアップしても生徒たちはちゃんとついてきます。

編集部 家庭学習はかなりの量が求められるのでしょうか。

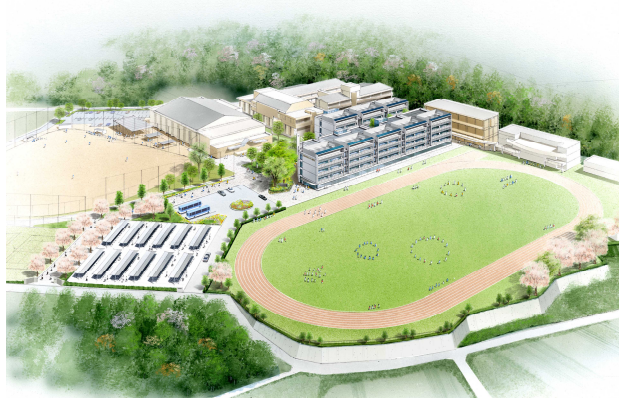
遠藤 特に 期生は、入学時点での学力や学習習慣の定着状況で、個人差が大きいと考えられますので、一律に何時間、というわけにはいきませんが、明日の授業範囲の教科書は必ず目を通す、どんなに忙しくても英数国は必ず復習する、の2点をご家庭と連携して習慣化させていきますので、少なくとも平均的には2時間ぐらいは家庭で勉強することになるでしょう。

編集部 中高一貫生は、高校では高校入学生とは別クラスですね。

遠藤 カリキュラムが違いますから別です。現在は特進、進学、スポーツの3コース制ですが、中高一貫生が内部進学したらそのコースが加わって4コース体制になります。

編集部 卒業後の進路の目標はどのようになっていますか。

遠藤 今までの本校は基本的に東洋大学に進学するようシステム化されていましたが、東洋大学にすべて学部学科があるわけではありませんから、特進コースを中心に、国公立大や難関私立大学に進学する生徒も増えています。現在の特進コースからも来春は海外大学進学者が出る見込みです。中高一貫生は時間をかけて育てますから、特進コース以上に、国内外の大学からそれぞれの希望に合わせた進路を選ぶことになるでしょう。



編集部 中学生と高校生は同じ校舎でしょうか。

遠藤 一緒です。現在、創立50周年事業として校舎1号館の建て替えを進めていて、来春完成しますが、ここは普通教室棟になりますので、高校生と一緒にです。その後は再来年夏までに北棟の建設、3号館のリニューアル工事、グラウンド等の周辺環境の整備を行ないます。新校舎は太陽光発電やシャワーレットトイレ、人工芝などを備えた快適な学習環境です。

編集部 昼食はリニューアルされる生徒食堂で高校生と一緒にとることになるのでしょうか。

遠藤 いいえ。中学生は原則としてお弁当です。ご家庭の事情でお弁当が難しければ注文することができます。中学生は教室で担任とともに昼食をとりますが、これは食育指導の一環でもあります。高校生になったら食堂を利用できます。

編集部 部活動は高校生と毎日一緒に活動することになりますか。

遠藤 文化系はともかく、運動系は規格が違う、体力差があるなどで、高校生と一緒に限られた範囲になるでしょう。期生は人数も少ないですから、いくつもの部に生徒が分散するとチームが組めなくなる可能性もあります。高校は県内でも強豪の部が多く、指導者も設備も揃っていますから、入学した生徒たちの希望を聞きながら、順次活動する部を増やしていくつもりです。

編集部 登下校はスクールバスですか。

遠藤 牛久駅からは中学生用のバスを運行します。また、つくば、守谷、竜ヶ崎など、県内6つのルートでスクールバスを運行していますが、こちらは来春からは千葉ニュータウンからも運行します。

編集部 今度は入試についてうかがいます。どのような設定になるのでしょうか。

遠藤 現在検討中です。12月に専願入試、1月に入ったら一般入試を2回程度で考えています。入試問題は国語、算数、理社の3つで、公立一貫校のような記述問題も出題する方向で検討しています。今後の説明会ではもう少し詳しくお話できるでしょう。

編集部 では最後に保護者の皆様にメッセージをお願いします。

遠藤 本校の魅力はカリキュラムと整った学習環境です。カリキュラムはゆっくり丁寧に指導します。生活指導も保護者ととともにきめ細かく取り組んでいきますので、人間形成には良い環境です。6年間の中高一貫教育を卒業すると、まずは大学ですが、大学進学はプロセスの1つです。本校は大学卒業後を見据えて教育活動に取り組みます。

編集部 ありがとうございました。